

Special Interview

かけがえのない師との出会い。

薬科大学を卒業した後、製薬会社に勤務しました。しかし、薬害問題などをきっかけに西洋医学の考え方による薬物療法への疑問が募り、自然治癒力による治療を行いたいと思うようになりました。その時に鍼灸という東洋医学が視界に入ってきたのです。

25歳で薬業界から脱サラし、大阪鍼灸専門学校(現 森ノ宮医療学園専門学校)で2年半の間、学びました。そして、厚生会日産玉川病院東洋医学内科の第一期鍼灸臨床研修生に合格し、代田文彦先生と光藤英彦先に師事することができたのは幸運としか言いようがありません。

代田先生は、東京女子医科大学の教授であり、また附属の東洋医学研究所を創設された所長でもありました。また、代田先生に東京大学医学部物療内科で出会われた光藤先生は、愛媛県立中央病院東洋医学研究所所長を歴任されました。人間的にもすばらしいお二人の師から“お灸を広める”という使命を私は授かったのです。

25年間におよぶ吉野での活動。

1979年に大阪市谷町九丁目で開業したものの、これだけでは師の意志を受け継ぎ実践することにはならないと考え、翌年から奈良県吉野郡川上村武木でボランティアで鍼灸治療をはじめました。

宗先生以外にも本校附属診療所鍼灸室の中島 茂先生、当院の歴代の助手さんや女房の内助の功もあり、25年間も活動が続けることができました。鍼を打つのは私たち専門家。お灸については、すえ方を地域の方々に覚えてもらい毎日、自宅ですえる習慣を身に付けていただきました。

その結果、6年目にアンケート調査したところ、約7割の人が「効果があった」と答えてくれたのです。林業に携わる人が多く、腰や膝に故障を抱える地域の方に喜んでもらえたのは本当に嬉しかった。予防医学として鍼灸の効力が実証され、ますますボランティアに力を入れたいと考えようになりました。

新たな拠点、灸憩処「芭蕉庵」。

次のステップとして、施灸活動ができる自宅からもっと近いボランティア拠点を探していました。現在、灸憩処「芭蕉庵」を構えている築200年の家屋、その持ち主の奥様が中学校の同級生だったことが分かり、ふたつ返事で無償でご提供いただいていることに感謝しています。

暗峠を越えて大阪と奈良を結ぶこの街道ではトレッキングを楽しむ人が多く、地域の人のみならず通りすがりの人も立ち寄ってくれます。『誰もが自由に入出りでき、いつでもお互いにお灸をすえあうことができる施設』になれば、目標が達せられたことになるでしょう。そして、お灸による治療が行える灸療ボランティアが育てば言うことはありません。

9(灸)のつく日の土曜・日曜・祝日に、午前10時～午後4時頃まで開いています。どなたにも気軽に越えさせていただきたいですね。大阪側からの道はとても狭いので、お車で来られる場合は生駒側から暗峠の少し手前をめざしてください。目印は喫茶「風舞」。お借りしている家屋のオーナー・中尾 好則さんが経営されています。



右手前:喫茶「風舞」 奥:灸憩処「芭蕉庵」



宗 孝先生は大阪市平野西で「宗鍼灸科」(TEL: 06-6703-9147)を開業されている。薬剤師でもあり、西崎先生の漢方薬の先生でもある。